

音集

756

256

228

特41
756



葉狩

紅葉狩

44 7120
25
内美

女子
冬もあつらへて浮世に
身も浮あつた
佳

もむらも今もか
重藤志重の
人社をねむりの
白雲の
ましまさ

ス
うしろよこぼりきたらしく
向ふてはるるもあはれなき
詠めつ。四方の梢もさうりやう
伴ひある道のへらもあはれなき
うしろよこぼりきたらしく
朝乃原の影白よりあはれなき
まいてめ井さなめあはれなき

うしろよこぼりきたらしく
向ふてはるるもあはれなき
詠めつ。四方の梢もさうりやう
伴ひある道のへらもあはれなき
うしろよこぼりきたらしく
朝乃原の影白よりあはれなき
まいてめ井さなめあはれなき
うしろよこぼりきたらしく
向ふてはるるもあはれなき
詠めつ。四方の梢もさうりやう
伴ひある道のへらもあはれなき
うしろよこぼりきたらしく
朝乃原の影白よりあはれなき
まいてめ井さなめあはれなき

花のけしきかへし袖もぬきて
くわいぞいばらもさきの世に
かえりて胸うちわぐ計あり
てかへして入るる人の行の
かきかへして思ひきりて思ひ
かきかへして思ひきりて思ひ
かきかへして思ひきりて思ひ
かきかへして思ひきりて思ひ
かきかへして思ひきりて思ひ

飲酒さかづきおのれはなほ
世もたぐひあつて山探よその
かきかへして思ひきりて思ひ
かきかへして思ひきりて思ひ
かきかへして思ひきりて思ひ
かきかへして思ひきりて思ひ
かきかへして思ひきりて思ひ
かきかへして思ひきりて思ひ

花のけしきかへし袖もぬきて

そ頼みしむまはさしむもさうれ
うもつしむまはさしむもさうれ
まづしむまはさしむもさうれ
うもつしむまはさしむもさうれ
かまらまの首城の神の葵りの
よららまの月の盃はま神もまを
めららまの秋のたの紅城ま紅

紫青苔の地城の紅紫をいたいの地
まはさしむまはさしむもさうれ
まはさしむまはさしむもさうれ
まはさしむまはさしむもさうれ
まはさしむまはさしむもさうれ
まはさしむまはさしむもさうれ
まはさしむまはさしむもさうれ
まはさしむまはさしむもさうれ

256

228

複製不計



明治廿二年六月廿五日從
 同 廿四年一月廿八日迄 出版御届濟
 同 四十三年三月廿五日再版
 同 四十四年一月拾日別製本御届

訂正者

觀世清

(電話番町)



發行兼
印刷者

京都市上京區三条通築屋町東北角

檜

常之

(特電話二五)



かゝるを恐るるは鬼神の
 まんあるは通の可を頭をつた
 てあがらんとするを切をらひ給へ
 鈕よ恐れていもほのちるを引れ
 ろしけりぬ忽鬼神を志す人
 給ふ威勢は程をわらうもき

